

課題

のりさんは、37円のチョコレートと28円のラムネを買います。だいたいはいくらになりますか。

これまでのたし算とどのように違うのかな。

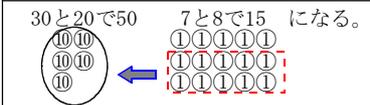
筆算の仕方考えましょう。



- 既習事項**
- ①前に学習した筆算とは違うけど、お金を絵や図にかいて考えるとできそうだよ。
 - ②前の学習でやったように、十の位と一の位に分けて考えるといいかな。
 - ③一の位でくり上がると十の位になるから、筆算でも簡単にできると思う。

自力解決

①絵や図にかいて考えたよ。



30と20で50 7と8で15になる。

$$\begin{array}{r} 30 \\ +20 \\ \hline 50 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 7 \\ +8 \\ \hline 15 \end{array}$$

だから $\begin{array}{r} 50 \\ +15 \\ \hline 65 \end{array}$ 答えは65円になる。

②十の位と一の位に分けて計算してみた。

$$\begin{array}{r} 7+8=15 \\ 30+20=50 \end{array}$$

一の位が 7+8で15
十の位が 30+20で50
筆算を使って

$$\begin{array}{r} 15 \\ +50 \\ \hline 65 \end{array}$$

だから $37+28=65$
答えは65円

③十の位と一の位に分けて筆算をしてみたわ。

位ごとの計算を2段に分けるよ。

$$\begin{array}{r} 37 \\ +28 \\ \hline 15 \\ \hline 65 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 7+8 \\ 30+20 \\ \hline \end{array}$$

答え 65円

指導上の留意点

- 既習事項を生かして、一人一人に考えをもたせる。
- 二段に分けて筆算で解いた児童に対しては、二段に分けない方法をできないかを考えるように声掛けする。

集団思考

1 自分の考えを発表する。

②十の位と一の位に分けて計算した答えをたしました。

①ぼくは、お金の絵をかいてから筆算をしました。（ノートや発表用紙を使って説明）

③私は、一の位と十の位のたし算を2段に分けて、筆算しました。65円になりました。

それぞれの考え方をみると似ているところがありそうですね。



2 筆算の仕方についてそれぞれの考え方のよさや共通点を話し合う。



どのやり方も十の位に繰り上がっているところが似ています。

1円が10円になるところと、一の位から十の位へ繰り上がる場所が同じね。だから筆算で簡単にできる。



②と③の考え方は同じだよ。2段に分けなくても、繰り上がった1を十の位でたせば、簡単にできそうだよ。

$$\begin{array}{r} 37 \\ + 28 \\ \hline 65 \end{array}$$

3 繰り上がり1回の筆算の仕方をまとめる。

十の位に繰り上がりがあっても、筆算で解けるね。筆算の仕方では、新しく分かったことはどんなことかな。



一の位から十の位に繰り上がっていることです。



十の位に繰り上がった1は、十の位でたして計算すればよいことです。

○ 適用問題に取り組む。(教科書や単元問題ライブラリー)

- 一の位から順番に計算する。
- 十の位に1繰り上げてたして計算する。

ま
と
め

● それぞれの考え方を関連付けさせていく。

● どの考え方も一の位から十の位に繰り上がっていることに着目させ、筆算の仕方をまとめていく。